

# 会 議 録

## 1 会議名

第3回浦川原区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 報告（公開）

#### ア 会長報告

- ・「霧ヶ岳温泉ゆあみ」にかかる検討会について

#### イ 委員報告

（報告なし）

#### ウ 市からの報告

- ・下水道使用料及び農業集落排水使用料の改定について
- ・出張なんでも懇談会の開催状況（途中報告）について

### (2) 協議（公開）

#### ア 中学生との意見交換会について

#### イ 出張地域協議会の実施について

#### ウ 次回の開催日について

## 3 開催日時

平成27年6月26日（金）午後6時30分から午後7時49分まで

## 4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4、5

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：五十嵐輝義、池田幸博、北澤誠、杉田昭一、中村丈一、藤田宏禎会長、村松勝藏副会長、村松恵子、村松千恵子副会長、山崎正幸
- ・事務局：浦川原区総合事務所奥田所長、木村次長、総務・地域振興グループ西山グループ長、産業グループ春日グループ長、建設グループ竹内グループ長、総務・地域振興グループ保高班長

## 8 発言の内容

### 【藤田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 出席者は10人
- ・ 会議録の確認：村松勝藏副会長に依頼
- ・ 村松恵子委員が遅れて来たが、議事開始前に着席。

### 【藤田会長】

「2 報告事項」、「(1) 会長報告」は、「ア 霧ヶ岳温泉ゆあみにかかる検討会について」資料1をご覧ください。

(資料1に沿って説明)

度々、述べているように、施設の休止まで2年しかない。本年度中に方向性を定め、来年度には行動に移さなければいけない。時間がないので皆さんから精力的に協議いただき、意見書なり提案を市長へ提出しなければいけないと思っている。今後、皆さんの審議で決まると思うが、ご協力願いたい。

第1回検討会は、資料にお名前が挙がっている方から浦川原区コミュニティプラザにお集まりいただき、29日の午後6時30分から開催する。

会長報告は以上だが、質疑は後ほどまとめて受けたい。

次に、「(2) 委員報告」に移るが、委員から報告はないか。

(会場内から「なし。」の声。)

では、会長報告への質問はないか。

ゆあみにかかる検討会の委員構成は各界、各層の皆さんから意見をいただけるよう、幅広く浦川原区の諸団体の皆さんに参加いただいた。末広、月影、中保倉、下保倉の各地区からも代表を選出していただいている。

質問がなければ「(3) 市からの報告」に移る。「ア 下水道使用料及び農業集落排水使用料の改定について」説明を求める。

### 【建設グループ竹内グループ長】

(資料2に沿って説明)

### 【中村委員】

下水道使用料のことは分かったが、一緒に請求がくる水道の料金はどうなるのか。

**【建設グループ竹内グループ長】**

今回は下水道料金に変更されるもので、水道料金は該当しない。

**【中村委員】**

水道料金は、直近ではいつ改定されたか。また、2、3年後に値上げする見込みはあるのか。

**【木村次長】**

本日は水道の資料がないので、後日、ご報告したい。

**【中村委員】**

ガス、水道、下水道はセットのようなもので、市民はこれらも気になるので、ご配慮いただきたい。

**【藤田会長】**

それでは次回の協議会で報告いただけるか。

**【木村次長】**

その前に、分かった時点でご報告させていただく。

**【中村委員】**

次回の協議会の時で結構。

**【村松勝藏副会長】**

お願いだが、次回の協議会の時で良いので、上越市の改定後の料金が、新潟県内の他の市町村に比べて高いのか、安いのか、県内の順位で何番目位なのかが分かる資料をいただきたい。上下水道、併せて資料が欲しい。

**【建設グループ竹内グループ長】**

上水道は資料がないが、下水道の関係だけで良いか。

**【村松勝藏副会長】**

回答は次回で結構。口頭でなく、資料をいただきたい。

**【藤田会長】**

水道料金について次回の協議会で報告していただくのと、下水道についても上越市が県のどの順位にあるか確認できる資料を提出いただくことでお願いしたい。

**【杉田委員】**

いただいた別の資料に、浦川原区は下水道接続率80%くらいとある。何年か前からこの接続率の問題があり、職員が各町内会を回って啓発をしていたが、接続率が上がらないと言われている。ここ数年の浦川原区の接続率が上がったのか、どこまで持ってい

きたいのか、浦川原区の現状と今後の方向に何かあったらお聞かせ願いたい。

**【建設グループ竹内グループ長】**

今の80%という数字は、末広地区での出張なんでも懇談会においての話で、当日、会場でははっきりした数字が不明だったために80%程度とお話したが、正確には26年度末で82.2%、それ以前は80%に満たなかったと思われる。

推進員や職員も接続率の低い集落には回らせていただき、接続率アップにつなげていきたいと思うし、できるだけ100%に近づけなければならないと思っている。いろいろ事情のある方もあるが、可能な限り接続していただくようPRしたい。

**【杉田委員】**

皆さん家庭の事情があって、接続したくてもできないこともあると思うが、行政もそのあたりを考慮していただきながら、一方ではせっかくの下水道なので、少しでも加入率を上げるようにしてほしい。

**【五十嵐委員】**

単独槽、汲み取りの家庭は、環境面から早く接続すべきだと思うが、合併浄化槽の場合、市としては下水道に接続するようPRをするのか。あるいは合併浄化槽は良いだろうということなのか。

**【建設グループ竹内グループ長】**

下水道に接続できるエリア内では、合併浄化槽のお宅も公共下水道に接続していただくようお願いしている。ただ、エリア外では、合併浄化槽ということになる。

**【池田委員】**

例えば隣の宅地を通さなければ配管できない等、いろいろな事情で接続できない家庭があると思う。接続できなくても罰則はないと聞いているが、簡単に教えてほしい。

**【建設グループ竹内グループ長】**

公共下水には、その地域が供用開始区域に入ってから3年以内に接続するようお願いしているが、罰則はない。

**【藤田会長】**

他に発言はないか。

(会場内から「なし。」の声)

それでは「イ 出張なんでも懇談会の開催状況(途中報告)について」、説明願いたい。

**【総務・地域振興グループ西山グループ長】**

(資料3に沿って説明後、) 4地区のうち今回、2地区が終了した。残りの2地区で

6月28日の日曜日に、午前9時30分から中保倉地区で、午後1時30分から下保倉地区で開催する予定である。

**【藤田会長】**

先に終わった2地区の報告をいただいたが、報告を受けたということでよろしいか。

(会場内、意見する声なし。)

それでは「3 協議」に移り、「(1) 中学生との意見交換会について」を協議したい。事務局から報告があるので、その説明を求める。

**【総務・地域振興グループ保高班長】**

資料は、1枚だけである。昨年に行った「中学生との意見交換会」を、仮に今年も実施するのであれば、本日、この場で話し合っ、決めていただく必要があるだろうと考え、協議が必要と思われる項目のみを列挙した。

なお、事務局では去る6月18日、水曜日に浦川原中学校にお邪魔し、校長から学校側の都合等を聞いてきたので、参考までにご報告したい。

中学校に打診した内容は、地域協議会が前年に引き続き、中学生と地域協議会との意見交換会の実施を希望しているので、手法的な進め方は昨年のものに拘らないにしても、中学校の協力を得ながら、今年も実現できないか。実現できるとすれば、学校の都合としていつ頃、どのような形を希望するか。これに対し、校長先生からは、個人的な意見としながらも、お考えや熱い想いのようなものをお聞きしてきたので、事務局で聞き取った範囲ではあるが報告する。

まず、昨年の取組に対する感想として、ワークショップも勉強になったが、生徒たちの提案がどう反映されたのか、実現したのかを生徒自身が見届けることなく卒業してしまい、残念だった。卒業すると自分たちが何を提案したかさえ忘れてしまうだろうから、生徒が出した意見が地域の変化にどう生かされたかを実感できる場面が欲しい、とのことだった。

それでは、どのような取組を希望するかと尋ねたところ、話し合いだけだと「単発」のイベントで終わって、その後のことが分からないので、生徒自身のアイデアを生徒も関わって協議し、実現したことを生徒自身が実感できる取組を希望するという。例えば、1年生を対象に取組を始めて、進級しても同じ生徒たちと話し合いを続けながら、彼らが3年生になった頃に何かを実現できる内容はどうか。例として、そばなど区内の特産品の「ラベル」を生徒たちがデザインし、実際に貼って売り出すような取組が面白い。生徒たちのアイデアが目の前で実現され、地域づくりに貢献したと実感できる。

地域協議会は、区内においては相応の「発言力」を持った団体と認識している。子どもたちのアイデアを地域協議会后押ししてもらって、地域づくりに生かしてもらえれば、生徒も成果を実感できるだろうとのことだった。また、話し合いの場は、お互い忙しいので年1回の設営で構わないとお話である。

どの時期のどのような取組なら、学校の都合がつくかを聞いたところ、10月17日、土曜日に『先輩に学ぶ』という取組を、また、10月31日、土曜日には『音楽発表会』を予定していて、登校日と位置付けているが、その日はメインの取組の時間帯以降、何も決まっていない。メインの取組の終了後に地域協議会との取組を行うなら、これから相談もできる、とのことだった。

校長との会話の流れから、参考までに以下のことも聞いてみた。

例えば『げんき市<sup>いち</sup>』に取り組んでいるが、今以上に子どもたちも行ってみたい、参加したいと思うようなイベントにするために、企画、運営に中学生のアイデアや力を借りたいとお願いしたら、考えてもらえるかと聞いたところ、授業があるために会議に招集されて出席する訳にはいかないが、生徒のアイデア等を学校まで聞き取りに来てもらえるなら対応できる。取組としては、面白いとの回答だった。

以上のようなことを参考として承知いただき、本日は今年度の取組を実施するの可否なのかという入口の協議から順に、書き出した項目を協議してほしい。

#### 【藤田会長】

今、説明をいただいた。地域協議会としては当初、協議会の活動内容を知って理解してもらいたいとの趣旨があったが、去年は3つの部門で「産業」と「交通」と「住みよい浦川原」をテーマにワークショップをした。事務局でも、学校と事前に話し合っただき、学校では教育上の成果を求めているという意向が出ており、この辺のとらえ方を我々がどう考えていくかが課題である。

3年生が対象だと成果が出ないうちに卒業してしまうということなので、この辺を皆さんと協議した上で、実施するか、しないかの判断をしていきたい。昨年、実行委員長を務めていただいた村松恵子委員、ご意見をどうぞ。

#### 【村松恵子委員】

去年は手探りで、学校側とお話をしながら実施した。私たちとしては中学生に地方自治の話をして、子どもたちの考え方を知ることができ、また冊子も作ったが、3年生に見ていただけたかどうか、間に合ったのか心配だった。いろいろな意見を読みながら、その中でできることは実現してあげたいと思っていたが、なかなか取り掛かる時間がな

く、意見を聞いたのみという状態になってしまったことは、本当に残念だ。

先ほど、校長先生の発案として、そばのラベルを生徒たちの考えで実現させたらどうかというのがあったが、昨年、村松千恵子副会長とさわやか学級で作成した浦川原の地図を校長に見せたら、校長からは「これを浦川原の包装紙にしたらどうか。」という提案をいただいた。浦川原は、本当にPRすることが下手で、浦川原を他の地域にアピールすることができないと感じる。

先ほどの説明にあった『げんき市<sup>いち</sup>』には、私も村松千恵子副会長らと一緒に参加している。そこでいろいろな地域の人たちとお話をするのが楽しく、また、ためになるので、是非、中学生にも参加してもらって、感じ取ってもらいたい。

先日の『うらスポマラソン』には、子どもがたくさん参加していて、それが中学生のチャレンジになっているので、実際に何かをすることによって子どもたちが成長するものと思う。昨年の反省を踏まえて、ワークショップだけでは自身のものにならないという校長先生の言葉をお聞きすると、何か体を動かして、子どもたちが実際に実感できるような取組ができれば、今年、もう一度取り組んでみたいと思う。

#### 【藤田会長】

今のお話からも、ある程度長期に渡って行うことと、短期で行うことの仕分けをしなければならぬと思う。すぐ成果が上がるものと、時間をかけて上がるものを区別しなければいけない。それと予算付けができるまでにしないと云いっぱなし、聞きっぱなしになってなかなか実現できない。

お金を使わなくても、例えば昨年も冊子にまとめていただいたが、それが生徒に届いているか分からないとのことだったが、これは学校の責任で卒業しても届けてもらうことが大事だと思う。これは届いているのか。

#### 【総務・地域振興グループ保高班長】

確かに、卒業式の数日前までずれ込んでしまったが、確実に届けてある。冊子も校長からは非常に評価していただいて、生徒たちも自分たちの載っている写真を見て大変に喜んでいと聞いている。

#### 【藤田会長】

それから、具体的に「そばのラベル」という言葉が出ていたが、この「そばのラベル」にはどういう意味があるのか。

#### 【総務・地域振興グループ保高班長】

校長の口から例として出た言葉だ。特産品の例として校長が例示しただけで、「そば」

に深い意味はない。

#### 【村松恵子委員】

昨年の反省を踏まえて、私も実際に子どもたちが実感できることが良いと思う。子どもたちが素直な気持ちでいろいろ述べてくれて、私たちも中学生が「こんなことを考えていたのか。」と感ずることができた。「ブランドのお米を作る。」や、「高齢者の足になろう。」など、いろいろな意見が出たので、成果があったと思っていたが、学校側から見れば、それだけでは駄目だということだろう。

#### 【藤田会長】

実感させたいということだろう。体験というか、ペーパー上だけでなくということだ。例えば観光案内、ほくほく線でうらがわら駅や虫川大杉駅に降りても、どこへ行って良いか分からない、交通の便が悪い、説明もはっきりされていないという発言が昨年に出ていた。標識を立てるとか、地図を作るとかとなると、やはり予算が必要だ。

1年生から取り組んでいって、3年生で成果を出すという考えも示されたが、その辺も実行委員会を立ち上げて検討することでいかがか。村松恵子委員から今年も委員長になっていただき、中村委員から補佐していただいて、村松千恵子副会長も昨年に引き続いて加わっていただきたい。

#### 【山崎委員】

最初に会長も言われたが、学校側、校長の思いと地域協議会の思いにズレがあって、昨年のワークショップの時、私もそう思いながら、このくらいなら問題ないという気持ちで参加した。校長の思いが学校の思いなのか、あるいは生徒の思いを校長が代表していると考えべきなのかと思うが、生徒はそこまで深く考えないで自分たちの意見を言っていると思う。

校長の、なんとか形にして成果を表したいという思いが前面に出ていて、例えばラベルを作って浦川原をアピールするとか、売り出すとか言っているが、我々、地域協議会がどこまで首を突っ込んでいくべきか、校長の思いを全部反映していくと地域協議会はどこまでするべきなのかということになる。

村松恵子委員が言われたように、昨年のワークショップで若い人の意見を聞いて私らも見直すこともあったし、その程度で十分だと思う。成果までとなるとズレが生じてくるし、このまま突っ込んでいっても何か釈然としないで参加することになると思う。

#### 【藤田会長】

学校と地域協議会との間で温度差があり、地域協議会がどこまで入り込んでいけば良



いのかということだと思うが、結局、行政や地域での市民の活動状況が、生徒には映らないのだろうと思う。地域で、こんな協議や活動をしているのが地域協議会だと、その仕組みをきちんと理解してもらうのが目的だったと思うが、去年はそういう意味で、ワークショップで地域おこしという取組をやっていただいたので、そうなると校長の言われた問題が出てくるのだと思う。

今年はどうするか。

これだけ議論させてもらったので、もう一度、実行委員会を立ち上げて、学校側から教育上の要望があったということだから、学校と摺り合わせていただきたい。山崎委員が言われた、どこまで地域協議会が首を突っ込んでいけば良いのかがポイントになってくる。当然、学校なので成果は教育上の成果が求められるということだろう。

**【村松恵子委員】**

それに関しては、地域協議会の皆様にも昨年と同様に協力してもらわないといけない。皆さんどうだろうか。そこまで関わらなくても良いと思われる方もおられるか。

**【藤田会長】**

今の発言は、実行委員会に協力してほしいということか。

**【村松千恵子副会長】**

実行委員会は、昨年と同じメンバーなのか。

**【藤田会長】**

それは協議する。実行委員会を設置したほうが良いだろう。

1つの案をいただき、現在、空いているのは10月の2日間ということなので、どちらかを選ばなければならない。私達や実行委員会からすると、何かの行事のついでの時間に実施するという形ではなく、改めて日程を設けてもらいたいのが本音だが、音楽祭などの後に時間があるからという回答だ。それも実行委員会で調整していただきたい。年中行事で行うなら年間計画のスケジュールに入れなければならないというアドバイスもあったということなので、その辺を協議いただければと思う。

**【中村委員】**

学校側の思いと、協議会の考えがかけ離れているということで、最低でも資料にある「(1) 目的」において、どちらに比重を置くのか、どこに視点を置いて目的は何かということをはっきりしておかないと、実行委員が中学校や市と相談しても、取組を進めることは難しい。最低でもやるか、やらないかを決めなければならないと思うが、場合によっては実行委員が中学校と相談した結果、話がまとまらなければ実施しなくても良い

ということを確認していただきたい。

実行委員へ投げるとするのは、なかなか難しいと思う。昨年と同じように地域協議会が主体となっていくのか、あくまでも中学生はお客さんなのか、校長が言われるように中学生が主体で我々がお膳立てしてあげて、先輩としてアドバイスをしてあげるのか、どちらが主体なのか、それらを含めて目的をしっかり持たないと実現できない。

**【藤田会長】**

昨年の取組も、地域協議会の活動内容を中学生に理解してもらう目的で行って、校長が言われるのはワークショップをしたのは良いが、その後の結論がないということだと思う。いくつか生徒の提案があったが、それをそのままにしておいたため、その成果はどうなったのだという発言が出てきた。

**【中村委員】**

最低でも言えることは、中学生と話をして冊子にまとめたことも1つの成果だと思う。中学生と我々が、頭を絞ってやったという事実は成果だと思うので、その中で実現できるものがあれば実行していけば良いと思うが、それは次のステップでのことであり、この段階ではお互いの意見を交換することが主である。地域協議会の委員も来年には任期が切れるので、成果を求めるのは次期の協議会にもっていったら良いだろうと思う。

**【藤田会長】**

地域協議会はこんなことをしているのだというアピールの形にして、実施の手段は中村委員の言われたように、直接、地域協議会がやらなくても何らかの機関に呼びかけをして実現していくという方法もある訳で、それはそれで可能かと思う。

任期のお話もあり、そのため、このメンバーでの学校との交流は、そこまで踏み込まなくても良いのではとのお考えもあった。これは、学校と話し合っていたかなければならない。

少々、曖昧なところがあって申し訳ないが、ざっくりばらんに学校と話し合っていたら、中止なら中止で構わない。ただ、これまでの段階では、続けようと協議したはずだ。大枠は分かっていただけだと思う。実行委員をどうするか。村松恵子委員、中村委員、村松千恵子副会長の3人をお願いしたが、今年もこの3人でよろしいか。

**【中村委員】**

出席できない場合もあるので、4人くらいいたほうが良い。1人欠席すると2人しかいなくなる。

**【藤田会長】**

五十嵐委員か池田委員、いかがか。池田委員、どうか。

【池田委員】

先ほど山崎委員からも話があったが、地域協議会がどこまで踏み込むべきなのか。中村委員が、最悪、駄目になっても了解いただきたいと発言されたが、正にその通りだ。学校側は教育上、子どもたちに結果を見てほしいという教育側の立場での思いがあるのは当然だと思う。また、中村委員の言うように、冊子としてまとまったことが成果だと私も思う。昨年、村松恵子委員以下2人の委員がどのように学校側と協議されたか分からないが、相手は昨年と同じ生徒ではなく違う生徒になるので、仮に昨年と同じ内容でやっても、同じようにそれなりの成果が出ると思う。私に委員になれということとは別の話になったが、私が感じていることはそういうことだ。

【藤田会長】

昨年、ワークショップにさせていただいたのは、地域協議会の活動内容をワークショップで表していただいたということだ。その軌道が大きく外れている訳ではなく、学校側が言う、成果を子どもたちに見せたかったということに対して、中村委員からは冊子になっているという指摘があり、それもそうだと思う。それは学校と話し合ってもらえれば良いかと思う。

【池田委員】

昨年の本来の目的は、会長が言われたように、地域協議会はどんなことをしているのかを中学生に知ってもらいたいということだったが、会長の話も10分くらいしか時間をとれなかった。その話をもっと長くして、詳しく、例えば、「こういうことをしている。」などの事例を挙げても良いと思う。先ほど、ラベル云々の話があったが、それをやるということになると経済的な背景が必要だし、個人的にはそれは、地域協議会と中学校との意見交換会の域を外れていると思う。

【藤田会長】

おっしゃる通りだ。そういった機関につないで行くことはできるだろうと思う。例えば昨年の例だと、商工会やバス会社等につないでいけると思う。今日の話もそうだし、校長のお話もそうだが、まだよちよち歩きで、今回で2回目の取組なので、中村委員がおっしゃるように詰めていただくということで、<sup>ゼロ</sup>0ベースで進めていただいて10月に向けて組み立てていただきたい。校長も今年度いっぱいの方で、地域協議会委員も任期切れで皆、同じようなものである。一生懸命に取り組もうということで、3人の方に加えて池田委員、よろしく願いしたい。村松恵子委員、大変だと思うが、連絡を取り合

いながら進めていただきたい。

次に、「(2) 出張地域協議会の実施について」協議したい。

出張地域協議会は、毎年4地区を巡回しているが、地域協議会をより身近に感じてもらうための取組ということでお願いしたい。また、関連して、「(3) 次回の開催日について」、月影地区で月影の郷を会場に、7月22日の午後6時30分から開催することを提案している。その後、中保倉地区、下保倉地区、末広地区の3地区を順番に巡回したいと思う。

事前の打ち合わせで月影地区を7月22日にしたのは、月影地区と末広地区は総合事務所で行っている「出張なんでも懇談会」が既に終了しているからである。今後、下保倉地区と中保倉地区で「出張なんでも懇談会」があるが、末広地区は既に終わっているので、次回の地域協議会は末広地区を先に回ってはいかがか。期日はまだ決めなくても、順番だけ決めて、末広地区、中保倉地区、下保倉地区の順にしていきたい。

「(3) 次回の開催日について」は、これでよろしいか。

(会場内から「はい。」の声。)

7月22日の午後6時30分からということで、ご予定願いたい。

議題は以上だが、皆さんから何かないか。

#### 【中村委員】

マナビィハウスの脇にあった資源ゴミの集積所がなくなり、今はコミュニティプラザの脇にプレハブで設置された。以前は、入口がバリアフリーだったが、今は入口に高い段差があり、女性など大変だと思うので、踏み台を置くなど何らかの工夫をしていただきたい。駐車場の出口なので不可能かもしれないが、高さが気になるので検討願いたい。

#### 【奥田所長】

職員は気付かなかったが、利用する方の状況や意見をお聞きし、改めて確認したい。

#### 【村松恵子委員】

先日、公民館活動のさわやか女性教室で、行政に関する勉強会があった。霧ヶ岳温泉ゆあみにかかる検討会の人選に異論はないが、地域協議会から選出された方には是非、NPOの会員や住民に負担がかからないように、ゆあみの今後を検討してほしいとお願いしたい。

もしゆあみがなくなり、NPOが傾くようなことがあって、会員や住民の負担になってしまうと困るので、地域協議会から選出されて委員になった方は、その辺を良く考えた上でお願いしたいと思う。

【藤田会長】

いろいろ議論は出てくると思うが、まだ第1回の会合も開かれていない。住民の負担やNPO夢あふれるまち浦川原の組織の負担を0<sup>ゼロ</sup>には言えないまでも、限度があると思うので、忌憚のない意見を皆さんからいただきながら、集約していきたい。地域協議会としては当然、提案なり意見書がそこで出てくると思うので、その際には皆さんからいろいろな知恵をお借りした上で、進めたいと思う。

何しろ、人口がだんだん少なくなってきた、高齢化している。お風呂にも一人で入れなくなってくるし、家に内風呂も整備されている。その上、あちこちに温浴施設がたくさんある。利用者が減って経営難にもなっているということで、行政はいろいろ調査した上で休止をする方針なので、これも配慮しながら進めていかなければならない。

【池田委員】

昨年12月20日過ぎだったと思うが、ゆあみの勉強会がこの場所であった。その時にいろいろ聞いたが、全てがゆあみのせいではないとしても、私も会員になっているNPOのバランスシートを見る限り、個人的にはかなり問題があると思っている。それで、行政も止むを得ず施設の休止という形にしたものと思うが、以前の会長の言葉の中にもNPOがギブアップしそうだという趣旨の発言もあった。

検討会の委員の中に協議会委員が3人いて、今までの経緯を分かっている。会長からは市長へ要望書を出すという話もあり、それも含めて協議会へフィードバックもあるとのことだ。どういうことが話し合われ、どういう方向へ向かおうとしているかは、私たち地域協議会にも情報提供されるし、私たちもそれに対して意見を述べるという形になっているので、検討委員になった方は、他の意見をお持ちの検討委員の方もおられる中で大変だと思うが、どういった方向性が良いのか、全体のバランスを見ながら検討してほしい。

【藤田会長】

言葉の整理だが、地域協議会では要望ということではなく、意見書か提案ということになるので、皆さんと協議した上で取りまとめていきたいと思う。非常にデリケートな協議になってくると思う。時間もないので、平成27年度中に方向性をきちんと決めていかなければならない。

他に発言はないか。

なければ、これで第3回浦川原区地域協議会を閉会する。

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : [uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。